

日本の知的財産創造力発揮のため知的生産者公共調達に質的評価原則に転換を

— 日本の知的生産と知的財産の国際競争力を上げるために —

仙田 満・福井 秀夫

① デザイン等の知的生産は知的財産立国実現の根幹要素

日本では、少子高齢化、人口減少という局面の中、少ない資源を価値あるものに変えていくための質の高いアイデア、デザイン、技術の担い手を育成し、知的財産立国の人的基盤を確立することがますます求められる。ところが、現行法の公的発注の仕組みが、原則知的創造の品質を一切加味しない、価格競争入札を原則とし、かつ、地方自治体では8割以上がこの原則を無批判に踏襲する設計者選定が行われていることは、専門家の知的創造の意欲、能力を削ぐものであって、日本の将来にとって由々しき事態である。知的生産者の公共調達の評価システムの価格競争原則を転換すべきではないだろうか。

② 知的財産・デザイン立国を目指すため公共調達システムを質的競争原則へ

日本が世界的にも伝統的なすぐれたデザイン・文化の創造力を持つ国であることは知られている。この伝統をよい発展させ、優れたデザインによる産業の牽引、優れた人材にとっての魅力向上という好循環を成り立たせるためには、知的生産者の公共調達は、質的競争を原則とすべきである。

③ デザイン等の知的生産は国際的魅力を高める

日本の知的財産の基礎を固め、一層の国際競争力を備えるためには、デザイン力や知的創造力を涵養し続ける仕組みが備わっていることが、極めて重要な要素である。工業製品のみならず、建築・町並み等都市環境においても、デザインの重要性は国際競争にさらされる。豊かな知的財産による魅力を備えた町並み・環境は、海外からの評価向上、訪問者増大、投資拡大にも貢献し、国際的な魅力を高める。日本が、国際競争の中で生き残るための重要な要素である。

④ 日本の都市・地域の国際競争力を上げる

日本の都市・地域の公共空間の質を上げ、都市・地域の国際競争力を高める必要がある。シンガポール、マレーシア、タイ、中国、韓国、インドネシア等、アジア諸国の公共空間の質は、優れたデザインや環境への投資と保護ゆえに着実に上がってきている。観光、環境、オフィス立地など、地理的に代替関係にあるこれら近隣諸国の動向は、日本の競争力に大きく影響する。この観点からも、公共調達の選定は質的評価原則に変える必要がある。

⑤ 若手知的生産者の発掘・支援・育成

現在の公共調達は過去の経験年数や、受注件数など、質よりも既得権に基づく実績が重視される傾向が強い。このため、才能ある若手の人材が、公共調達への応募を妨げられ、活躍の場が制

約されてしまっている。優れたアイデア、デザイン力をもつ若手を見出し、支援し、広く育成し、彼らが、国際的に活躍する機会を増やすためにも、公共調達選定は、品質本位で評価する方法を取るべきである。

⑥ 質的評価体制の確立

知的生産者の公共調達選定を価格原則から質的評価原則に変えていくためには、公平で優れた目利き力のある評価体制を構築することが重要である。評価体制のレベルが知的生産の質のレベルを決定すると言える。そのため政治、行政、学界、実務等関連主体が一致団結して協力していく必要がある。